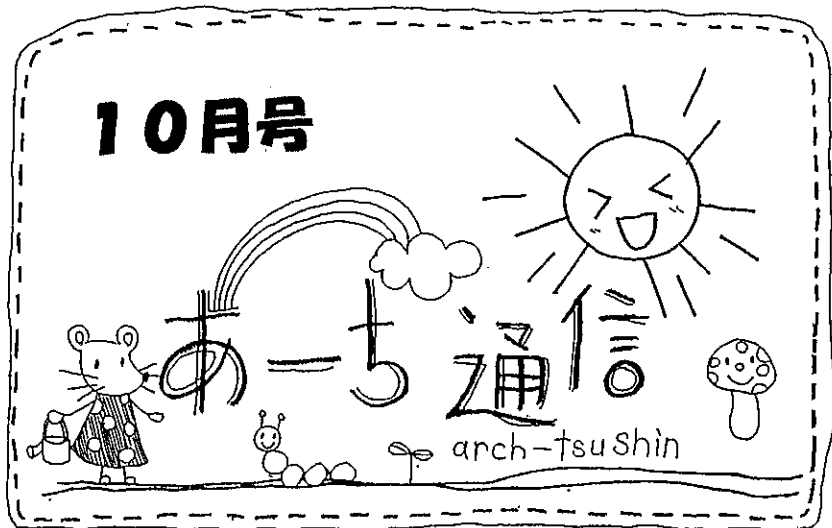




あーち博物館

ハロウィン

10月1日(土)

～6日(木)

ちょっとこわいけど
ドキドキする世界。
カボチャにこもり。
トリックオトリート。
今年も大がかりな
作品があなたの
ビクワリ顔を
待ってます!!!



あーち コミュニティカレッジ 4th&5th

『発達が気になる子どもの保護者・

支援者のためにⅡ』 ～おとなしすぎて困る?～

講師：東口 たまきさん (川崎医療短期大学

「あーち」発達相談員)

とき：10月8日(土) 午後2時～3時30分

ところ：こらぼ あーち

<予約制 詳細はチラシをご参照ください>

『学齢期 子育てパワーアップ講座』

2回セッション

講師：倉石 哲也さん 武庫川女子大学 准教授

臨床心理士

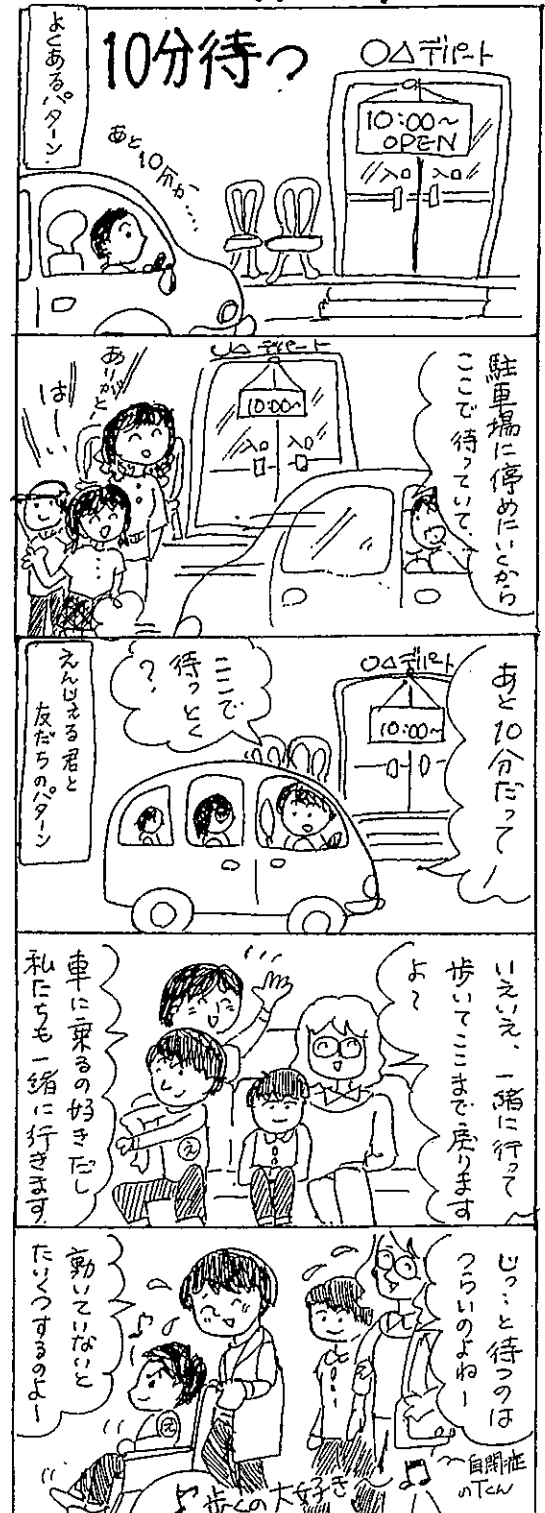
とき：10月29日(土) 午後1時30分～3時

11月5日(土) 午後1時30分～3時

ところ：こらぼ あーち

<予約制 詳細はチラシをご参照ください>

えんじえる君 by Bon



2011年10月号 Vol.73

神戸大学大学院サテライト施設

「のびやかスペース あーち」

〒657-0057 神戸市神ノ木通 3-6-18

TEL&FAX 078-805-6090 【開館：火～土曜日】

Email arch@h.kobe-u.ac.jp

http://www2.kobe-u.ac.jp/~zda/arch-prep.html

神戸大学大学院人間発達環境学研究科

ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

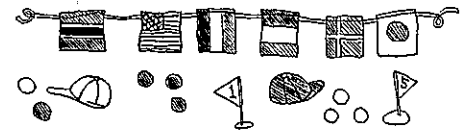
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲 3-11

TEL 078-803-7970 FAX 078-803-7971





10月予定表



		こらぼあーち	あーとあーち	ふらっとあーち
1	土	博物館（初日）		
2	日	休 館		
3	月			
4	火	博物館	あーち人形劇団「むー」企画会議1時30分～	おひさまひろばあーち（午前中）
5	水	博物館		
6	木	博物館（最終日）		
7	金	居場所づくり 3時～6時		
8	土	0歳児のパパママセミナー（予約制）／高校生の赤ちゃんふれあい体験学習 10時30分～12時 セミナー「発達が気になる子どもの保護者・支援者のために II」(予約制)2時～		
9	日	休 館		
10	月			
11	火	ほっと（予約制）10時30分～		おひさまひろばあーち（午前中）
12	水	ほのぼの音ランド 11時20分～		おりがみあそび 2時30分～
13	木	セミナー「進学マナーズラン」11時～12時 あーち通信編集会議 1時30分～	筆をもとう 1時～2時30分	
14	金	居場所づくり 3時～6時		
15	土	ぽっとらっく（予約制）		紙芝居 11時～
16	日	休 館		
17	月			
18	火	ほっと（予約制）10時30分～	あーち人形劇団「むー」企画会議1時30分～	おひさまひろばあーち（午前中）
19	水	親子わらべ歌あそび 11時20分～		
20	木			ベビーマッサージ（はいはい）11時～
21	金	居場所づくり 3時～6時	アートセラピー 3時30分～5時	おむつ交流会 11時～
22	土	おはなしの国 1時30分～2時 音楽の広場 2時30分～		
23	日	休 館		
24	月			
25	火	ほっと（予約制）10時30分～		おひさまひろばあーち（午前中）
26	水			おしゃべりほっとタイム 11時～
27	木		筆をもとう 1時～2時30分	ベビーマッサージ（ねんね）11時～
28	金	居場所づくり 3時～6時／らくがきおばさんがやってきた 3時30分～5時		
29	土	セミナー「学齢期 子育てパワーアップ講座」(予約制)1時30分～3時		
30	日	休 館		
31	月			

- ・プログラムは都合により変更または中止することがあります。ご了承ください。
- ・太字のプログラムは今月の特別プログラムです。
- ・予約制以外の、どのプログラムも参加（見学）することができます。
- ・プログラムへの参加年齢の制限はありませんが、内容などの詳細は受付までお問合せください。
- ・ベビーマッサージにご参加の方は、バスタオルを1枚お持ちください。



ふらっとあーち

ふらっと (ドロップイン) 火～土 10 時半～16 時半
ふらっと相談員
 火曜 午前中 保育士 助産師
 午後 灘区子育て支援コーディネーター
 水曜 午前 臨床発達心理士(不定期)
 NPO 法人マザーズサポーター協会(第4水)
 木曜 元母子相談員 助産師(月2回午前)
 金曜 午後 発達相談員 灘区コーディネーター
 土曜 助産師(第2土曜日)

授乳室 **おひさまひろばあーち** 保育士さんによる親子遊び
 (火曜 午前 11 時半～)
紙芝居 人形劇 おりがみあそび
ベビーマッサージ おむつ交流会

くつばこ **受付**

あーとあーち **情報コーナー**

＜造形プログラム＞
アートセラピー
らくがきおぼさんがやってきた
あーち通信編集会議
 ＜いろいろな遊びを教えてください＞
めだか親子クラブ
 ＜習字を始めませんか＞ **筆をもとう** **画材道具**



こらぼあーち

＜音楽系プログラム＞
音楽の広場
ほのほの音ランド
親子わらべ歌あそび(まめつちよわらべうた)

＜おはなし＞
おはなしの国(ストーリーテリング&絵本)

＜予約制のプログラム＞
 発達障害がある子どもと親向け **ぽっとらっく**
 発達障害児支援プログラム **ぽっと**
 障害児者のための **居場所づくり**
0歳児のパパママセミナー
 & 高校生の赤ちゃんふれあい体験学習
テーマ別セミナー

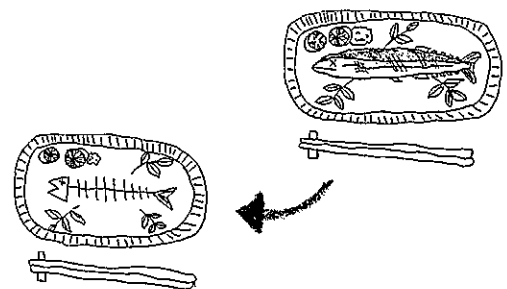
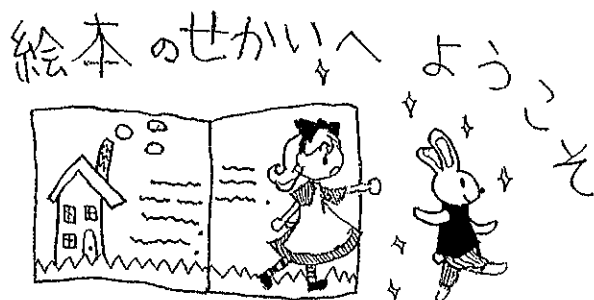
＜その他＞
あーち連絡協議会
あーち通信編集会議
 各種セミナー 講演会 座談会など

あーちのルール

☆ふらっとあーち・あーとあーち・こらぼあーちのプログラムに参加できます
 ☆飲食は情報コーナー(終日)か、ふらっと(12時～13時)でできます
 ☆オムツやゴミは必ず持ち帰りましょう ☆託児の機能はありません

あーとあーち・こらぼあーちについて

☆プログラムのないときは、自由に使えます(スタッフにお聞ください)
 ☆就学前のお子さんが遊ぶときは、保護者の付き添いが必要です
 ☆使い終わった画材道具や本は、もとの場所に戻しましょう
 ☆らくがきおぼさんがやってきた、アートセラピーは汚れてもいい服でおこしください

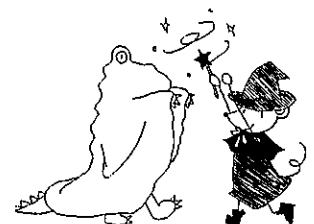


「くまとやまねこ」

(河出書房新社、2008年)

湯本香樹実 ぶん
酒井駒子 え

たいせつなともだちが しんでしまったくま。
 かなしくて かなしくて しょうがありません。
 そんなときであった やまねこが くまに たいせつなことを
 おもいださせてくれます。
 せつないけれど げんきになれる えほんです。(石原)

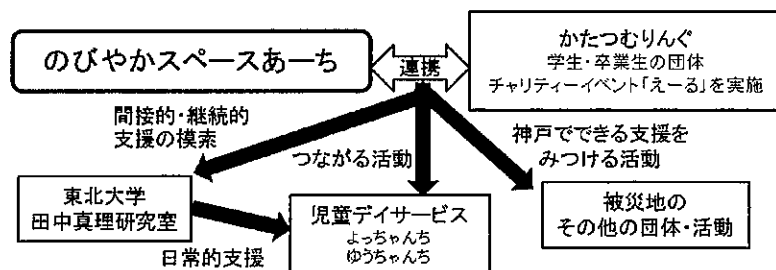


あーち ⇄ 被災地：つなぐボランティア活動の報告

「あーち」に関わっている学生と教員など7人で、宮城県南部に行ってきました。8月21日～27日の1週間でした。「あーち」でみなさんからご寄付いただいたおもちゃなどの送り先でも、たくさん活動をして、子どもたちと仲よくなってきました。神戸の子どもたちと同じくらいかわいい子どもたちでした。その他にも、津波で流されたイチゴ農園の整地をお手伝いしたり、泥をかぶった個人宅の清掃のお手伝いなどもしました。

この活動は、もちろん被災地復興のために少しでも力になれるかという個々人の思いから生まれましたが、もっと大切なこととして考えたのは「つなぐ」ということでした。神戸と被災地をつなぐ、今と未来をつなぐ。子育て中だったりすると、被災地に行きたいと思っても叶わないという方が「あーち」にもたくさんおられると思います。そういう方たちの分までがんばろうということでもあるし、また神戸にしながら被災地と具体的につながることができる回路を作ることができたら、という思いです。

私たちが縁あってつながったのは、東北大学の田中真理研究室です。被災した児童施設の支援に、学生たちと取り組んでいる研究室です。私たちは今回、この研究室との関わりを中心に、図のようなつながりを作りました。これからも、みなさんにこの活動の輪に関わっていただくお誘いをしていくことになると思います。何かちょっとでも、思いが形になりますように。(津田英二)



山元町のボランティアセンターの受付で住所や名前を書いた際に、向こうの係員の方がそれを見て、「東灘区ですか…阪神淡路大震災では、被害やお怪我はなかったですか、大丈夫でしたか。大変だったでしょう…」と親身に尋ねてくれました。私は、その様子を見てご自身やご家族のこともあるのに、こちらのことをこのように心配して下さることに心を打たれました。そして、神戸と東北との深い心の繋がりを感じました。

いちご畑になる予定の荒れ地を耕していると、人形や書類など大切な家族の思い出が込められたものも泥の中にたくさん埋まっていました。全国からの1,000名以上のボランティアの手が入っているというこの土地に、美味しい大粒のいちごが実をつけ、被災者の方々の笑顔が見られる日を祈らずにはいられませんでした。(高橋眞琴)

作業の合間に被災した人やボランティアの方々から話を伺うことができ、改めて地震・津波の被害の大きさ、復興作業の難しさ、人と人とのつながりの重要性を実感しました。多くを学び、多くを考えさせられた一週間でした。被災地におけるニーズも変化しており、今後はより継続的な精神的ケアが必要となってくるようです。一介の学生である私にできることは少ないかもしれませんが、今回できた「つながり」を足がかりに、できることからやっていこうと思います。(釜田卓哉)

